

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3370202248		
法人名	医療法人 福寿会		
事業所名	グループホーム 友愛		
所在地	岡山県倉敷市平田155-190		
自己評価作成日	平成22年2月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370202248&amp;SCD=320">http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370202248&amp;SCD=320</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区駅元町1-6 岡山フコク生命駅前ビル		
訪問調査日	平成22年3月5日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の思いを一番に考え、職員の都合ではなく、利用者の希望で動くようにしている。</li> <li>・毎日の決定しているメニューでも、利用者の食べたいものがあれば、希望を取り入れている。</li> <li>・食べる事が困難な人には、食べれるように工夫している。</li> <li>・オシャレが好きなお客には、好みの服が着れるようにしている。</li> <li>・ハード面での不便さを利用して、体力維持が出来る様にしている。</li> <li>・家族の希望があれば、居室にて一緒に食事ができる。</li> </ul>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>倉敷の中心市街地に位置し、インターや倉敷駅にも比較的近く、幹線道路が傍を走り、商店街にも近く生活に便利な場所である。</p> <p>母体が医療法人で責任ある医療支援が確立され、多様な高齢者介護施設を複数運営し、総合的な協力体制が出来ている。職員の定着率が良く、有資格者が多く認知症介護に肝要な人的配備が整っており、スタッフに対し入居者・家族からの信頼も厚く、安心して暮らしている。</p> <p>詳細で実務的なアセスメント表を整備しており、個々の身体・生活状況、個人の思いをしっかりと把握し、本人に相応しいサービスが提供出来ている。</p> <p>市街地の3階建て住宅を改修し、2・3階部分をグループホームとして利用しており、階段に昇降機を設置し、既存の建物を機能的に活用した都会型ホームである。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・一人ひとりがその人らしく自分のペースで暮らしてもらい、入居者の希望に添った暮らしを提供し、その人の出来る力を生かして生活できる様に支援している。	理念は共有空間に掲示され、その理念の意義を職員はいつも意識し理解するようにしている。それを原点に毎日を楽しみ暮らして貰うために、入居者本人の意向を第一とする支援が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・近くのスーパーに利用者と買物に行っている。 ・近所を利用者と散歩している。 ・町内の溝掃除に参加している。	溝掃除など町内作業活動には職員が参加。お祭りには御輿が来てお花をさしあげている。近所のスーパーに車で職員と買い物に行き、運営推進会議を通じて地域との連携が一歩一歩進んでいる。	地域と密着した生活を続けるには地域住民の理解と協力が不可欠です。ホームへの来訪支援と同時に、積極的に地域に出掛けて行く取り組みを続けて、地域との交流が深まっていくことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・電話等で相談があれば、その都度、電話や直接合って相談に乗っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・町内の情報を提供してもらい、家庭での介護の現状を教えてもらい、入居相談に役立っている。	メンバーは町内会長・民生委員・老人クラブ会長や地域包括センター職員等である。会議は家族全員にも連絡し、出席できる人は参加している。ホームの現状や入居者の生活ぶりなどを報告し、認知症についての質問等活発な発言がある。	運営推進会議を通じて地域の状況を把握し、さらに地域連携を進められることを期待します。議事録を欠席メンバー・家族にも送付してはいかがでしょう。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・利用者の抱えている問題を市の担当者に相談し、対応してもらい解決した。	倉敷市の担当部局には入居の問い合わせや入所状況を情報提供し、困難事例や法改正に伴う諸々の課題を相談しており、連携がしっかりと出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・全職員が身体拘束をしない介護を理解しており、問題が発生した時は、そのつど工夫して、拘束しないようにしている。	開設時よりから身体拘束はしない信念で、高齢者権利擁護及び虐待防止の指針を定め、拘束禁止の対象となる内容やその意義を研修し共有して、身体拘束 0 を目指している。玄関は日中は開いており、夕方には施錠する。	職員アンケートを取りなが拘束か、どうすれば身体拘束を防げるか提案を求め、虐待防止講習会内容を会議で共有する積極的取り組みは評価したい。これからも安全に配慮した支援の工夫を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・全職員は、研修や勉強会に参加しており、虐待の早期発見、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・現在、後見制度を利用している方がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・文書などで、個別に説明し、ご家族などより理解・同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・面会時やケアプラン作成時等に困った事やご意見、ご要望を尋ね、そのつど職員と話し合い、実行できるようにしている。	家族の皆さんに日頃から声掛けし請求書送付時、生活ぶりやエピソードの情報を提供しており、面会時等に家族の意向を聞いてケアに生かしている。意見箱は設置してある。	家族アンケートを実施して家族のホームへの希望や提案を取りまとめ、それらを分析してホーム運営に生かしてはいかがでしょうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・ミーティングにおいて、良い案があれば、改善している。	毎月第2水曜日のミーティングには統括責任者も参加しており、申し送りノートに欠席者は必ず目を通す。職員の提案で、洗濯物干し場やウッドデッキを作り日向ぼっこ等に利用している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・月例報告にて現場の状況を把握しており、改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・サービスの質の向上をめざし、法人内外の研修にも積極的に参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・研修参加を通じて、同業他社と交流する機会があり、互いに情報交換や見学をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・面会時に、本人の話を根気よく聞き、本人の安心が得られるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族がどういった点で困っているのかについて話し合っている。 ・入居してからも相談を受けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人と家族の話をきちんと聞き、安心して利用してもらえるように説明している。また、入居された後も、ご家族と連絡をとりあい、様子を知らせている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・洗濯物を干したり、たたんだり、掃除や食事の準備、片付け等日常生活において、できることを一緒に取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ご家族と連絡をとりあい、本人が今望んでいることを伝え、ご家族に出来る事は、協力をしてもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・手紙や電話等で連絡が取れるように支援している。 ・美容院や商店などに本人の希望にて、出かけている。	手紙を近くのポストと一緒に入れに行き電話番号を回してあげている。「あの人に会いたい、里に帰りたい、娘の家に泊まりたい」の要望も家族の協力のもとに実施し、連絡により友達が来られることもある。行きつけの美容院には職員がついて行く。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者が仲良く暮らせるように、困っている人がいれば、手伝ってあげるように声かけしたり、仲間として、共に楽しく生活できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退居先の関係者にこれまでの生活習慣など情報を伝えている。また、その後もご家族の相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・本人が自分の気持ちを伝え易いように、呼ばれたらすぐに話を聞くようにしている。 ・自分から希望を伝えにくい人には、本人の立場になって考えていくようにしている。	長い職員が多く気心が通じて入居者の思いや意向がよく理解できている。緻密で必要とされる項目が系統的に網羅されたアセスメント表が出来ており、職員は入居者の日々の生活についてしっかりと把握しており、信頼も厚い。	家族同様の人間関係が築かれていますがマンネリ化しないように心して、本人の新しい力を見つけ出し、変化する意向に沿った支援が出来るようにさらに努力して下さい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・ご家族などには、面会時を通じて昔の話を聞いており、ご本人には話したい時にそのつど昔の話などを聞かせてもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・毎日、健康状態をチェックし、行動を見守り、いつもと変化があれば、その都度確認している。 ・出来る事、出来ないことにも注意している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ケアプラン作成には、本人・家族の希望や意見を聞き、職員とも話し合いをしている。 ・本人に変化や要望があれば、見直しをしている。	1ヶ月毎のミーティングや申し送り時に協議し家族の意見も聞いて、本人の意向や生活歴を踏まえたプランに沿ったケアを提供している。本人の状況によって6ヶ月・3ヶ月毎にモニタリングを実施、状況の変化に応じて見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・足元の不安定とか夜間不眠など記録を参考に話し合い、日頃のケアや介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・ご本人や家族のことを考え、本人が一番喜ぶことを大切にして、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・買物に利用する商店や本人の希望する理美容院やかかりつけ医等を把握しており、必要に応じて利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・これまでの医師との関係を大事にし、協力医療機関を利用する時は、本人と家族の意向を得て定期受診や必要時に受診できるように支援している。	入所時に協力医とかかりつけ医について話し合いをし、現在は全員協力医に掛かっている。専門医の受診は原則家族が付きそう。月2回協力医の往診があり、緊急時には直ぐ協力医の往診がある。気になることは電話で相談、訪問看護もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・日常的に接している職員が、ご利用者の変化を看護師や医師に相談し、医療が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入退院時には、現状やその後について家族や医師と情報交換や相談に応じている。また、病院の相談員とも連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・利用者に変化があった場合、職員、家族、医療関係者、他施設等と連絡をとりあい、現状を共有し本人の為になるように支援している。	看取りケアは今まで経験は無いが、「第2の我が家」とするグループホームに看取りは必要として、現在「看取り指針」作成中である。	入居者には「我が家」という強い絆ができており、終末ケアの研修などに積極的に参加し、家族と具体的に話し合っ今後に備えて下さい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・急変や事故発生に備え、研修や訓練を行い、職員に周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・定期的にご利用者を含めて、避難訓練を実施している。	入居者も共に昼間・夜間の避難訓練をしている。運営推進会議委員は協力を表明、消防署には事前に連絡している。スプリンクラーは準備中で、2・3階に非常脱出口がある。	職員・入居者だけの避難訓練は限界があり、消防署の避難指導を受けられることをお願いします。非常食・飲料水は備蓄され自然災害時に備えてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・居室に入る時や入浴・排泄時など羞恥心に配慮するなどプライバシーに気をつけている。	入居者一人ひとりの個性を尊重し同じ目線で話し掛け、個人の生活リズムを大切にしている。重要書類は3階のプライバシーの保管庫で管理、シュレッダーで処分。羞恥心に配慮して、入浴にはカーテンを引いて見えないように工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・声かけや介助時に本人が望んでいることを職員が何気ない言葉や動作で本人の希望を引き出せるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・利用者の希望を一番に考え、食事のメニューや買物などその時の利用者の希望にそえるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・髪型は本人の希望を聞き、服は一緒に着替えを選び、購入時にも本人が気に入ったものを選んで買うなどおしゃれが楽しめるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・個人の嗜好を取り入れるなど利用者にとって楽しみの1つになっている。また、手伝いの出来る人には参加してもらい、力を発揮してもらっている。	テーブル拭き・下膳をエプロンを付けて手伝う人もあり、食材の買入れに職員と一人ひとり順番に行っている。行く前に食べたい希望を聞き、誕生日にはケーキとその人の好きなメニューを取りそろえ皆さんでお祝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・職員は、利用者一人ひとりの食べ物や飲み物の好みを把握しており、摂取量も記録して、食べれない人には工夫して、必要な量が確保できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、必ず自分で出来る人には自分でしてもらい、出来ない人には、介助にとうがいや歯みがきなど口腔ケアを実地している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しており、それぞれの排泄時間に合わせ、声かけや誘導によりトイレで排泄できるようにしている。	排泄チェック表により入居者個々に合わせてタイミングを計りトイレ誘導し失禁予防をしている。トイレでの排泄を励行して、おしめ・パッドの使用数を減らしている。夜間はポータブルトイレを使用し、排泄自立に向けて積極的な支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・排便チェックを実地しており、本人の状態に応じて食材や水分を工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・その都度、利用者の意向を聞き対応すると同時に入浴時も本人が安心して入浴できるように希望に添った介助の方法をとっている。	友愛温泉と名付け、毎日入浴剤を替えて香りや雰囲気を楽しんでいる。入りたがらない人には「仲の良い人が入っておられますよ」と誘っており、職員とのうち解けたコミュニケーションの場ともなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・職員は、利用者それぞれの習慣を把握しており、利用者に合わせて昼寝や一人で過ごしたい時はできる様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・利用者の薬を理解しており、服薬時には必ず介助するとともに本人に変化があった時には、医師に連絡し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・利用者ができる力を活かした役割を与え、手伝ってもらう事で本人に楽しく暮らしてもらい、利用者がやりたい事や望むことはできるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・買物や散歩など本人の希望に添って外出している。普段は行けない所は、家族の協力やホームの行事として行っている。	食材の買い出しには職員と共に出かけ買い物を楽しみ、3つの散歩コースがありその日の状況によりコースを選んで散歩している。「里に帰りたい、娘の家に泊まりたい」の要望も家族の協力のもとに実施し、系列施設である藤戸荘祭や春の花見・吉備路等にもドライブで出掛けている。	外出ボランティアの導入を一考し、外出を気分転換・五感刺激の機会として本人の意向に沿って実施されることを期待します。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・家族の了解のうえ、ホームにて立替、直接お金を持っていないくても、欲しい物が買えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・手紙を出す時は、相手の住所を確認し、電話をかけたい時は、相手先につながるように手伝っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・利用者が共同で使用する所は清潔を心がけ、季節の花を飾るなど利用者が居心地よく過ごせる様に配慮している。	ソファ・テーブル等が適宜配置されており、階段の下には職員の提案によるタミコーナーがある。季節の花や飾り付けは毎月変わって、3月はお雛様です。職員や入居者皆さんの心使いが伝わる落ち着いた空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・利用者一人ひとりに対して自分のいつも座る場所の確保ができるよう工夫するなど安心して過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室には自分の使い慣れたものや好きな物を置くなど本人の意思をたずねその人らしくらせるように工夫している。	既存の住宅をリフォームし、和室・洋室とそれぞれに特徴を生かした工夫が見られる。使い慣れた鏡台・机・テレビが置かれ、写真・ぬいぐるみ・手作りカレンダーや位牌を持ち込んでいる人もあり、居心地の良い個性溢れる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・居室で過ごすことの多い利用者が困った時、いつでも職員が呼べるようにブザーを置いている。 ・洗面所には手の届く所に名前の書いた色違いのコップを置き、自分で出来る人にはしてもらっている。		